

平成15年11月23日(日)

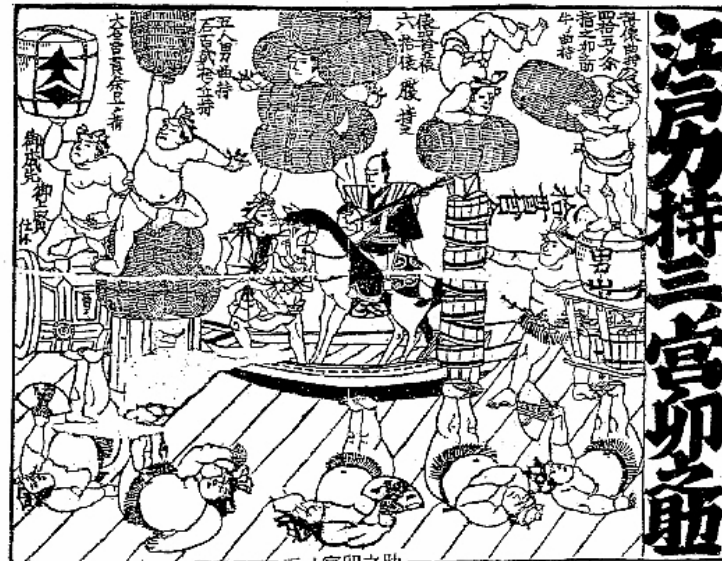
第29回 越谷市民まつり

# 越谷市郷土研究会 展示出品紹介

於 越谷市中央市民会館

## 三ノ宮卯之助

没後 150 年記念



さんのみや うのすけ ちから こうぎょう ひきふだ  
 三ノ宮卯之助の力持ち興行の引札(広告)

昭和26年(1951)木版刷り(高崎 力蔵)

### ●力石

水上 清

江戸時代後期、全国各地でおこなわれた力自慢、力競べの用の石で、その多くは力競べのおこなわれた寺社の境内などに遺っている。

力石は卵形の自然石が多いが、無銘の石と、年号や奉納者名を切り付けた石とがある。

全国最古の切り付け力石は、埼玉県久喜市樋の口の八幡神社にある寛永九年(一六三二)の石である。

越谷のそれは東越谷香取神社の元禄十三年(一七〇〇)のものである。

越谷市内には、現在、一一〇個の力石があり、そのうち八〇個ほどが切り付け石である。

### ●三ノ宮卯之助

三ノ宮卯之助(文化四年〜嘉永七年・一八〇七〜一八五四)は、武州岩槻領三野宮(現・越谷市三野宮)出身の「力持ち」である。

江戸の中期ごろから若者たちの間でおこなわれた力競べでは、卯之助はいつも最下位で「力なし」とからかわれていた。

猛訓練を重ねて力をつけ、やがて江戸を代表するまでの「力持ち」となった。

一座を結成し、江戸の見世物興行で名声を博した卯之助は、さらに興行の旅めぐりに出る。

先々の神社には卯之助の名を刻んだ「力石」が奉納され、現在、三十五個が確認されている。

足取りは関東周辺から兵庫姫路にまで及んでいる。卯之助の興行「力」や「力持ち」番付表なども現存している。

上方と江戸方の「力持ち」が日本一の座をかけて勝負した際、卯之助は江戸方の代表として出場し、みごと日本一の座を勝ち取った。

しかし、その夜かれは急死する。毒殺されたともいわれている。享年四十八歳。

## 諏訪大社の卯之助 力石

小林 重 蔵

長野県 下諏訪町の諏訪大社 下社秋宮の境内に三の宮卯之助の力石がある。

巨大なしめ縄で知られる秋宮の神楽殿の右手に、家族の健康や受験合格を祈願した絵馬かけがある。

その陰に卵型をした自然石が、解体した燈籠の残り石などと並んで無造作に地面に立ててある。

概略寸法は地表から上下八四cm・左右五〇cm・前後二七cm(いずれもそれぞれの最大値)。

石の正面には

「奉納 七拾又目 武勲(州)岩槻 三ノ宮 住人 卯之助 持之 同 治郎吉 天

保九戊戌年 四月吉日」

の文字が読み取れる。

当時の若者が一人前として認められるのが米一俵(一六貫二六〇キロ)を担ぎ上げることだったということから推しても、七十貫という重量は卯之助の怪力ぶりを伝え、驚嘆に値する。

## 江ノ島奥津の宮の力石

水上 清

江ノ島神社には三つの社殿があり、奥津宮がいちばん奥に鎮座する。境内に「奉納 八十貫 岩槻 卯之助持之」と彫りこんだ「卯之助の力石」がある。たて七十五cm、よこ五十四cm、厚さ三十三cm、重さ八十貫 $\parallel$ 約三百kg。

平成九年、この石は奥津の宮近くで初めて掘り出されたものの、来歴はまったく不明であった。

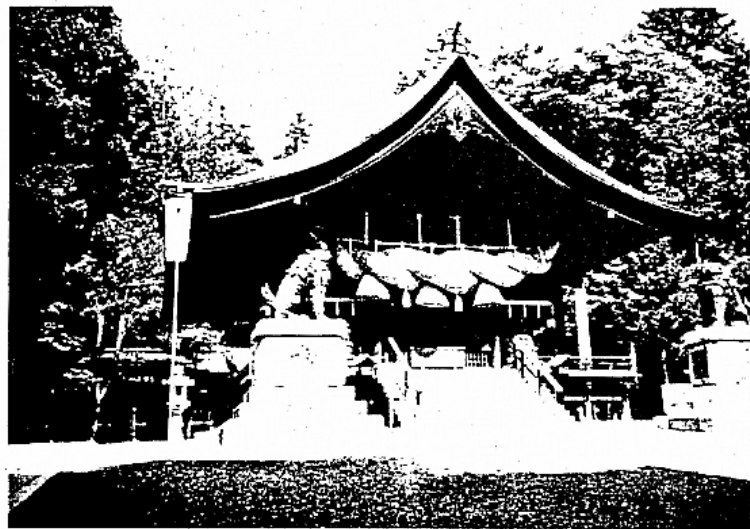
藤沢市では「力石」の小さな看板をつけて御岩屋道の傍に置いた。

平成十年の夏、私が偶然この石を発見し、「卯之助の力石」として新聞にも取り上げられ脚光を浴びるに至った。

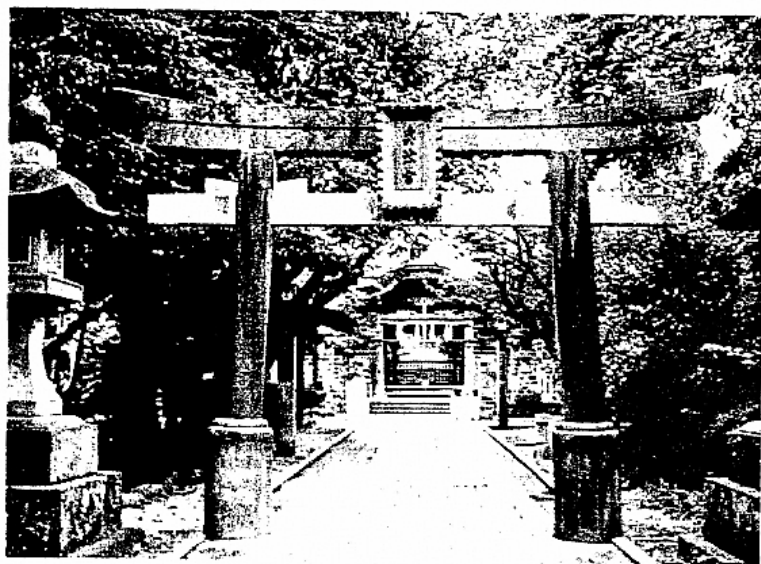
藤沢市は、出自が明らかになった「卯之助の力石」を貴重な文化財として、早速、現地に移して説明板を立てた。

「広報ふじさわ」とホームページには、「藤澤新発見・江ノ島奥津の宮の力石」として「卯之助の力石」を紹介した

かつての路傍の石は「卯之助の力石」として大きな変貌をとげた。



諏訪大社・秋宮



江ノ島神社・奥津の宮